

な分化が進んでいることが示唆された。

謝 辞

本稿をまとめるにあたり、国立科学博物館筑波実験植物園の遊川知久博士には、標本を同定していただいたほか貴重な資料と助言をいただきました。広島大学大学院附属宮島自然植物実験所の坪田博美准教授には実験所所蔵の標本調査の便宜を図っていただき、内田慎二氏、向井誠二氏には標本調査にご協力いただきました。また、倉敷市立自然史博物館の狩山俊吾氏、徳島県立博物館の小川誠氏、鳥取県の坂田成孝氏からは貴重な資料をいただきました。上記の方々に感謝の意を表します。

摘 要

1. クゲヌマランが広島県内に自生することを初めて報告した。
2. 広島県内のクゲヌマラン生育地の環境は、これまで知られている生育地とは異なっており、本種が遺伝的に分化している可能性が示唆された。

引用文献

- 橋本保・神田淳・村川広実 1991. カラー版野生ラン。家の光協会, 東京。
- 平井なつみ 2009. クゲヌマラン発見記. しぜんくらしき 68: 14.
- 広島県 (編) 1979. 広島県の植生図. 広島県。
- 環境庁 (編) 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 -レッドデータブック- 8 植物 I (維管束植物). 665pp. 財団法人 自然環境研究センター, 東京。
- 環境省自然保護局野生生物課 (編) 2007. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 レッドリスト (維管束植物). ネットデータ。
- Maekawa, F. 1936. *Cephalanthera Shizuoi* F. Maekawa. In Nakai, T. (ed.) : *Iconographia Plantarum Asiae Orientalis*. 1(3). pp.57-58. tab.26. Shunyodo Shoten, Tokyo.
- 前川文夫 1971. 原色日本のラン. 495pp. 誠文堂新光社, 東京。
- 正宗巖敬 1966. ラン科. 東亜植物図譜 26, くげぬま

- らん. 北陸の植物 14(1) : vii.
- 正宗巖敬 1969. ラン科. 日本の植物 8. 高陽書院, 東京。
- Miduno, T. 1937. Chromosomenstudien von Orchidazeen (Vorläufige Mitteilung). *Japan J. Genet.* 13:259.
- 大井次三郎 1978. 改訂増補新版日本植物誌 顕花編. 1584pp. + 56pls. 至文堂, 東京。
- 里見信生 1982. ラン科. 佐竹義輔・大井次三郎・北村二郎・亘理俊次・富成忠夫 (編). 日本の野生植物 草本 I. 平凡社, 東京。
- Tropicos 2013. IPCN Chromosome Reports. Tropicos org. Missouri Botanical Garden, 31 Jan 2013. <<http://www.tropicos.org/Name/23500118>>
- 谷亀高広・坂田成孝・矢田貝繁明 2012. 鳥取県において新たに分布が確認された5種の植物. 鳥取県立博物館研究報告 49: 7-12.
- 遊川知久 2009. 北海道に分布するクゲヌマラン類似植物. 北方山草 26: 13-20.
- 遊川知久・山崎旬・三吉一光 2003. クゲヌマランの分類と分布. *Orchid Sciences* 9: 10-12.